

2016年1月24日 礼拝メッセージ

聖書：第一ヨハネ5章13～21節

説教：この方こそ、まことの神

1 永遠のいのち

1) 手紙の目的

ヨハネがこの手紙で何を一番伝えたかったのか。そのことが、13節に書かれています。「私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。」

おなじようなことばは1章2節にもあり、この手紙は永遠のいのちのことを伝えるために書かれた。ひとことで言えばそうなります。

先週、岡山先生が来られて黙示録のお話をして下さるときにも、たまたま「永遠のいのち」のことが話題になりました。信じる者に必ず与えられると言われる「永遠のいのち」です。ことばではわかります。しかしどこまで実感しているのかと言われると、なにしろまだ見たことがありませんから、自信がありません。皆さんもおそらくそんなことでしょう。

このようにわかりにくい「永遠のいのち」ですが、そんなときは立っている場所をずらしてみると何かが見える事があります。どんなふうにずらすか。こんな場合、いつも言うことですが、何度かくり返されていことばにヒントがあります。それはどれか。

2) 「わかる」「知る」を手がかりとして

ここでは、「わからせる」「知る」「知っています」と訳されていることばがそれです。

「今まで知らなかったけれど、いま気がつきました」というほどの意味です。ここでは六

回出てきて、それぞれがぼらぼらではなく関連がありそうです。全部を見ることはできませんので、今日はそのなかから二つだけ取り上げます。

まず13節後半。「あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。」ここは、「あなたがたは、自分たちが永遠のいのちを持っていると知っています」と言い換えることができます。そしてもう一箇所は18節。「神によって生まれた者はだれも罪を犯さないことを、私たちは知っています。」このふたつを取り上げます。

まとめれば、「永遠のいのち」をいただいた者とはどんな人のことなのか。それは別のことばで言えば、もう罪を犯さない人のことです。ヨハネはそのように言おうとしています。

2 罪を犯さない？

1) 私は永遠のいのちを持っていない？

さあ、これは大問題です。私たちが「主よ、あなたは私の救い主です」と告白したときに主からいただいた大切な約束、それが永遠のいのちです。実感があるかはどうかは別に、とにかく「永遠のいのち」があると信じていたので、いろいろな苦しみがあってもなんとか希望を持って前に進むことができました。

ところが、「永遠のいのちを持っている者は、罪は犯しません」と言われてしまうと急に不安になります。どうして不安になるのか。

言うまでもありません。救われた皆さんは、罪を犯していないのでしょうか。いや、皆さんにお聞きする前にこの私はどうなのか。神さまの前ですから正直に言うしかありません。私は罪を犯しています。牧師がそんなことを言っているのかと、驚く方もいるかもしれませんが事実ですからしょうがありません。皆さんはいかがでしょう。

もし罪を犯しているのなら、その人には永遠のいのちはないということになります。16節に「死にいたる罪」というものがあると書かれています。もしかして、私が犯してきた罪は死にいたる罪であって、それは決して赦されるものではない。もしそうなら、私は結局死んで終わり。天国には入れない。私には永遠のいのちの約束はなかった。そんなふうにとんどん悪い方向に考えがいつてしまいうそうです。

もちろんそんなはずはありません。では、いったいヨハネは何を言いたいのか。これから確認していきます。

2) もし罪を犯さないと言うなら

こんなときは原点に帰って基本を確認してみるとよい。1章8節。「もし、罪がないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。」10節。「もし罪を犯していないというなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。」

ヨハネの出発点はここにあります。このことば、誰のことを言っていると思いますか。まだ救われない人のことを言っているのでしょうか。救われていなかったときは、確かに罪を犯していた。でも、救われた者はもう二度と罪を犯してはいけません。そう言ってい

るのですか。もしヨハネがそう言っているのなら、私は真つ先に教会に来る資格のない者ということになります。いっしょにして迷惑かもしれませんが、おそらく皆さんもそうでしょう。

ヨハネが言いたいことは、もちろんそういうことではない。ヨハネは、救われた者のことを言っています。救われてもなお罪を犯し続けていく。それが私たちの現実であると述べています。

たとえば、このように言う人がいたとしましょう。「私は主に救われてから、罪を犯したことはありません。」もしそんなことを言う人がいれば、ヨハネによれば、その人は嘘をついていることになる。その人は神を偽り者としたことになる。そう言っているのです。

もちろん神は偽り者ではありません。神は真実な方です。神が真実な方であるなら、私たちは自分のことを偽る必要はない。ありのままのことを言うしかありません。変な言い方をしますが、私たちは胸を張って、自信をもって自分の罪を告白して良い。

3) 神から生まれた真実な方が守ってください

これで少し一安心しました。さて、では18節前半のみことばはどう理解したらよいのでしょうか。「神によって生まれた者はだれも罪を犯さないことを、私たちは知っています。」

神によって生まれた者とは、主こそ救い主ですと信じた者を指します。信じた者は、日々精進して努力さえすれば将来いつか罪を犯さなくなります、と言っているのではない。信じた瞬間から、現在も、そして将来に至るまで罪を犯さないと述べています。まこ

とに結構な話なのですが、ここが一番困ってしまうところでもあります。鍵は続く後半のみことばにあります。「神から生まれた方が彼を守っていてくださるので、悪い者は彼に触れることができないのです。」

こう考えてみたらどうでしょう。私たちの目には、毎日罪を繰り返しているのが見えます。私たちの目には、これが偽ることのできない現実として見えます。しかし神はそうのように見ていないようなのです。18 節後半にある、神から生まれた方とは、主イエス・キリストのことを指します。キリストが私たちを守ってくださるので、悪い者は私たちに近づくことができないというのです。悪い者とは、私たちを罪に定めようとする存在と言ってよいでしょう。悪い者が近づけないですから、私たちを罪に定めることができません。定める者がいないのですから、罪を犯していないことになる。ひとことでまとめると、永遠のいのちをいただいている者は罪を犯さない。そういうことになります。

なんだかだまされたようですが、どうしてそうなるのか。理由はただ一つ。主イエス・キリストが私たちを守っていてくださるからです。この方が、まるで壁を巡らせるようにして私たちをご自分の内側に入れてくださり、守ってくださるからです。

永遠のいのちは遠い未来のことに思っていました。なので実感がほとんど感じられませんでした。けれども実はすでに現在の私たちに大きく関係していました。今すでに罪を犯さない者として扱われている。永遠のいのちは、今の私たちに大きな影響を与えています。そのことを覚えたいと思います。

3 この方こそ、まことの神

1) 偶像を警戒しなさい

最後に 21 節のことに触れておきます。「子どもたちよ。偶像に警戒しなさい。」偶像を拜んではならないと言うことはモーセの十戒の中に出て来て、誰もが知っています。ではいったい偶像とは何か。すぐに思い浮かぶのは仏壇や神社のことでしょう。けれどもそれは目に見えるレベルの話です。見えないところを掘り下げてみたら、何が偶像となるのか。そのことは意外に触れられないので、きちんと確認しておいたほうが良いと思います。

例を挙げましょう。皆さんは、こんなふうに告白しているはず。「私は真実である神を信じています。神が偽りであるとは絶対に思っていません。」よろしい。ではその同じ口でこう言ったことはないですか。「私は悪い人ではありません。私はうそは言いません。私は大事なことを隠したりはしていません。」たとえ口で言わなくても、心の中でつぶやいてはいなかったですか。自分の身を守るために、そんな言い訳をしてこなかったでしょうか。もし、自分には罪がないと言うのなら、どういうことになったのですか。1 章 10 節。「もし、罪を犯してはいないと言うのなら、私たちは神を偽り者とするのです。」おわかりでしょうか。「私は偶像を拜みません」と言いながら、心の中で本当の自分を偽っているのなら、それがそのまま偶像を拜んでいることになる。今日のテーマに即して言えば、神を偽り者とするものはなんであれすべてが偶像である、そうなります。

2) まことの神

どうしたらいいのでしょうか。神はこんな私たちをどうされるのでしょうか。なぐさめは

14 節にあります。「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。」

「神のみこころにかなう願い」とは何か。これもいつも議論になるところです。私は悪い人ではありません、私はこれだけがんばりましたと誇ることに神のみこころですか。反対でしょう。私はあれもこれもできません。きょうもしてはならない罪を繰り返しました。本当にみじめな人間です。こんな話はほかの人に聞かせられない。実はそれこそが、神のみこころにかなう願いである。そう言っているのです。

そんなことを祈っていいのかと不安になる方もいるでしょう。大丈夫です。安心してそのまま語ってください。私たちの願いを聞いてくださる方はまことの神です。永遠のいのちを与えるために、いのちをお捨てになられた方です。その方の前で、私たちは汚い姿をそのまま出して、ゆっくりと安らぐことができます。神は、そんな私たちのことを喜んで迎えてくださいます。